

創立50周年記念論文集の発刊にあたって

商学部長 皆 川 芳 輝

名古屋学院大学は、本年をもって創立50周年の節目を迎えることができた。それを記念して、『創立50周年記念論文集』が編まれることになった。大学では、教員の日頃の研究活動の成果に基づいて、高度専門知識・理論および実践の教授ならびに学生とのディスカッションが行われる。かかる教育は学生の人格形成においても重要な位置づけになる。さらに、教員は、自身の研究成果を介して、社会経済の健全な発展に寄与していく。『名古屋学院大学論集』は、教員にとって重要な研究成果発表の場である。したがって、名古屋学院大学論集各号をひもとけば、本学における講義がいかに先進的で優れたものであるか、および本学教員がいかに重要な社会貢献を果たしてきたかが自ずと把握できる。

商学部は、1992年に経済学部商学科の改組によって呱呱の声をあげた。今日における経営の最重要課題は、「革新（innovation）」「脱成熟（de-maturity）」である。経営革新に積極果敢に挑戦し、それを成し遂げるためには、高度な専門的知識・技能および確固たる理念・信念が不可欠である。商学部教員は全学的な教育目標に連動して、専門科目の授業などにおいて、豊かな人格と国際性を身につけるために何を為すべきか、社会経済の健全な発展に向けて何を為すべきかを学生諸君と議論している。

営利、非営利を問わず、あらゆる組織は、その運営においてさまざまな問題に直面するが、組織構成員がそれを解決しながら発展を遂げていく。このような組織における問題解決の実践は、商学部の研究教育の重要なテーマの1つである。商学部教員は、市場、企業、非営利組織において、人々はいかなる問題に直面し、それをいかにして乗り越えたかについて調査し、その分析結果に基づいて、各種の組織における問題解決の理論構築に努めている。教員は、研究成果を『名古屋学院大学論集』に発表し、社会一般に広く公開している。かくして、『名古屋学院大学論集』は、教員にとって、学生および社会経済との接点としての役割を有する。商学部教員は、今後とも引き続き、社会経済の実践の中に課題を見つけて、その研究成果を『名古屋学院大学論集』に発表し、学生の学習研究の高度化および社会経済の発展に貢献していく所存である。

『名古屋学院大学論集』が研究成果の発表の場としてより一層の成果を上げ、それによって、研究者、学生、地域の人々および企業人との知的交流の場として格段の発展を実現することを切に祈念する。